

自己評価実施要項 全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動」 (平成14年度着手分) 新旧対照表

改訂の内容

大学等が作成する自己評価書の活動の分類単位の自己評価の字数制限を最大30,000字程度から最大50,000字程度に変更

本機構が作成する評価報告書の様式を各評価項目ごとの記述から、各活動の分類及び各評価項目ごとの記述に変更

自己評価書の字数制限の変更に伴う改訂

【変更の理由】

目的及び目標に関する事前調査において、本テーマに関して大学等によっては、かなり多くの「個別活動」が提示されたことにより、当初の「最大30,000字程度」の制約の下では、大学等が自己評価書の作成に当たって個々の「個別活動」の状況を各着目点ごとに具体的に記述することが困難であると想定されたため。

【変更箇所】

記述の変更となる箇所は で示しています。

P.24

旧	新
<p>5 自己評価結果</p> <p>5 - 1 活動の分類単位の自己評価結果</p> <p>(1) 第2章の「 - A 活動の分類単位の自己評価」 (p.15)を踏まえ、「自己評価結果」を活動の分類ごとに 5,000字以内を目安として記述し、活動の分類単位の自己評価結果全体では 最大30,000字程度で記述し、フォントは明朝体10.5ポイントを使用してください。ただし、根拠の裏付けとなるデータ等は、字数制限外とし、フォントは指定しません。</p> <p>なお、活動の分類ごとの字数制限については目安であり、各大学等の実情に応じて記述量の調整は可能です。また、記述に当たっては、活動の分類ごとにページを改めてください。</p>	<p>5 自己評価結果</p> <p>5 - 1 活動の分類単位の自己評価結果</p> <p>(1) 第2章の「 - A 活動の分類単位の自己評価」 (p.16)を踏まえ、「自己評価結果」を活動の分類ごとに 8,000字以内を目安として記述し、活動の分類単位の自己評価結果全体では 最大50,000字程度で記述し、フォントは明朝体10.5ポイントを使用してください。ただし、根拠の裏付けとなるデータ等は、字数制限外とし、フォントは指定しません。</p> <p>なお、活動の分類ごとの字数制限については目安であり、各大学等の実情に応じて記述量の調整は可能です。また、記述に当たっては、活動の分類ごとにページを改めてください。</p>

評価報告書の様式の変更に伴う改訂

【変更の理由】

目的及び目標に関する事前調査において、本テーマに関して大学等によっては、かなり多くの「個別活動」が提示されたことにより、当初の評価報告書の様式では、活動ごとの記述について評価項目ごとにわかりやすく示すことが困難であると想定されたため。

【変更箇所】

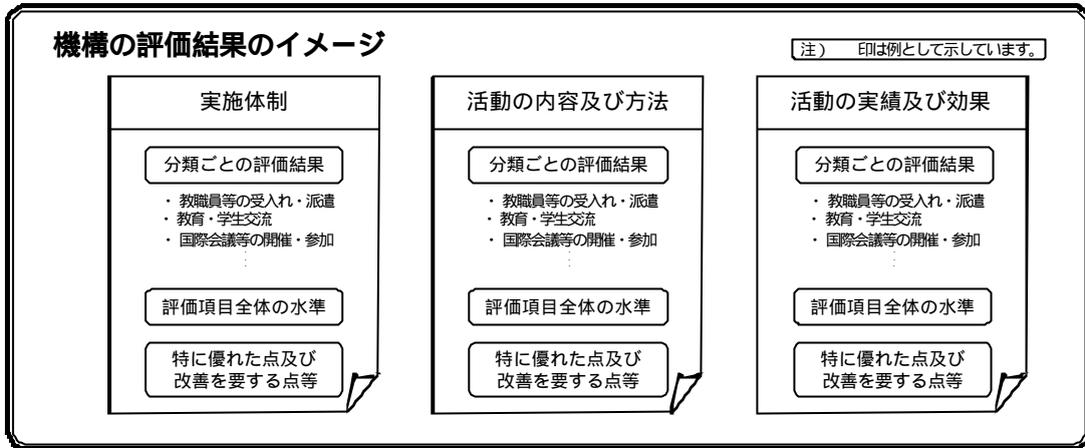
記述の変更となる箇所は■で示していますが、図については変更となる箇所を抜粋しています。

P.10

旧	新
<p style="text-align: center;">大学等の自己評価と機構の評価結果</p> <p>大学等においては、評価の対象となる活動をその意図や趣旨により分類した上で、その分類を単位として、本章の「評価の内容」の各評価項目ごとに行う活動の分類単位の自己評価、及び、活動の分類単位の自己評価結果を各評価項目ごとに見て、その「水準」と「特に優れた点及び改善を要する点等」を判断する評価項目単位の自己評価を行い、それらの結果を自己評価書として取りまとめ機構に提出します。</p> <p>機構では、大学等から自己評価書として提出される「活動の分類単位の自己評価」及び「評価項目単位の自己評価」を分析・調査した上で、各評価項目ごとに評価結果を作成します。</p> <p>大学等の自己評価と機構の評価結果のイメージ図</p>	<p style="text-align: center;">大学等の自己評価と機構の評価結果</p> <p>大学等においては、評価の対象となる活動をその意図や趣旨により分類した上で、その分類を単位として、本章の「評価の内容」の各評価項目ごとに行う活動の分類単位の自己評価、及び、活動の分類単位の自己評価結果を各評価項目ごとに見て、その「水準」と「特に優れた点及び改善を要する点等」を判断する評価項目単位の自己評価を行い、それらの結果を自己評価書として取りまとめ機構に提出します。</p> <p>機構では、大学等から自己評価書として提出される「活動の分類単位の自己評価」及び「評価項目単位の自己評価」を分析・調査した上で、各活動の分類及び各評価項目ごとに評価結果を作成します。</p> <p>大学等の自己評価と機構の評価結果のイメージ図</p>
<p>下記図のとおり</p>	

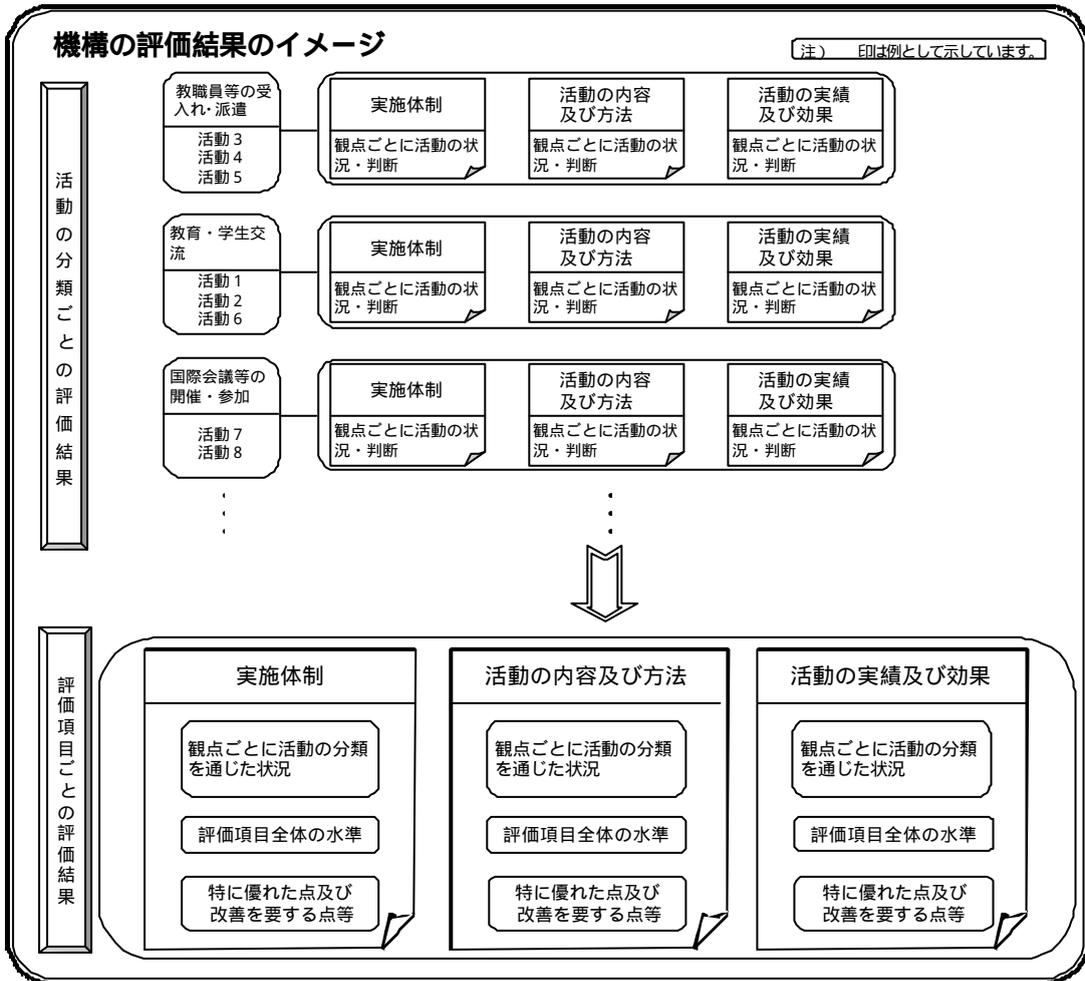
旧

大学等の自己評価と機構の評価結果のイメージ図



新

大学等の自己評価と機構の評価結果のイメージ図



大学

・判断を記述) (観点ごとに活動の状況

(5) 開発途上国等への -----
国際協力 【活動の実績及び効果】
【実施体制】 -----
----- (観点ごとに活動の状況
(観点ごとに活動の状況 -----
・判断を記述) -----
・判断を記述) -----

----- (6)
【活動の内容及び方法】 【実施体制】

- 8 -

大学

(観点ごとに活動の状況 (観点ごとに活動の状況
・判断を記述) -----

【活動の内容及び方法】

(観点ごとに活動の状況
・判断を記述) -----

【活動の実績及び効果】
----- (追込みでp.5以内とする)

- 9 -

旧

新

大学

6. 評価結果の概要 -----
項目別評価の概要 -----
(1) 実施体制 -----

----- (3) 活動の実績及び効果

(2) 活動の内容及び方法 -----

- 8 -

大学

5-2 評価項目ごとの評価結果 -----
評価の対象となる活動の -----
分類 ----- 特に優れた点及び改善
----- を要する点等

(1) 実施体制 -----
目標の達成への貢献の -----
状況 ----- (2) 活動の内容及び
----- 方法
(観点ごとに活動の分類 ----- 目標の達成への貢献の
を通じた状況の記述) ----- 状況

----- (観点ごとに活動の分類
を通じた状況の記述) -----

----- (項目全体の水準がわか
る記述) -----

- 10 -

	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <div style="text-align: right;">大学</div> <p>-----</p> <p>(項目全体の水準がわかる記述) -----</p> <p>----- (項目全体の水準がわかる記述)</p> <p>特に優れた点及び改善を要する点等 -----</p> <p>----- 特に優れた点及び改善を要する点等 -----</p> <p>-----</p> <p>(3)活動の実績及び効果 -----</p> <p>-----</p> <p>目標で意図した実績や効果の状況</p> <p>-----</p> <p>(観点ごとに活動の分類を通じた状況の記述)</p> <p>----- (追込みでp.2以内とする)</p> <p style="text-align: center;">- 11 -</p> </div>
旧	新
<p>注1) 「5. 評価項目ごとの評価結果」の項目全体の水準がわかる記述においては、各評価項目を総括する際に、次の5種類の表現を用います。</p> <p>評価項目「実施体制」及び「活動の内容及び方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分に貢献している。 おおむね貢献している。 相応に貢献している。 ある程度貢献している。 ほとんど貢献していない。 <p>評価項目「活動の実績及び効果」</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分に挙がっている。 おおむね挙がっている。 相応に挙がっている。 ある程度挙がっている。 ほとんど挙がっていない。 <p>注2) 各項目は、原則として1ページ以内に記述します。</p> <p>注3) は、大学等から提出された自己評価書等からの転載部分です。</p>	<p>注1) 「5-2. 評価項目ごとの評価結果」の水準は、各活動分類の観点ごとの状況と判断に基づいて総合的に導き出し、次の5種類の表現を用いて記述します。</p> <p>評価項目「実施体制」及び「活動の内容及び方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分に貢献している。 おおむね貢献している。 相応に貢献している。 ある程度貢献している。 ほとんど貢献していない。 <p>評価項目「活動の実績及び効果」</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分に挙がっている。 おおむね挙がっている。 相応に挙がっている。 ある程度挙がっている。 ほとんど挙がっていない。 <p>(削除)</p> <p>注2) は、大学等から提出された自己評価書等からの転載部分です。</p>